

「乳がん入院患者への効率的な薬学的管理を目的とした実態調査」

へのご協力をお願い

1. 研究の背景と目的

乳がん患者は主に手術、初回化学療法、緩和ケアなどを目的として入院されます。薬剤師は入院中に有効で安全な手術や薬物療法を行うために、服薬指導の他、医師、看護師など医療スタッフとの情報共有が求められています。また、退院後の服薬管理に向けて、退院時などかかりつけ薬局との連携強化が望まれます。

今回、乳がん入院患者における薬学的管理の実態調査を行い、現状の把握と問題点の解析を行い、今後の業務改善に役立てることを目的としました。

2. 研究対象者

平成31年4月～令和2年3月の間に、山口県立総合医療センターの乳腺外科に入院された患者さんを対象とします。

3. 研究の方法

入院患者数と入院期間、入院目的、入院中の薬剤師による介入件数、介入頻度、介入のタイミングについて診療録を用いて後方的に集約し、調査します。医師・看護師等への連携については、日常、病棟薬剤業務で記録を行っている疑義照会・質疑応答記録より調査します。

4. 臨床研究を実施することにより期待される利益および予想される不利益

本研究は既存情報を用いた研究であり、直接的な利益は生じません。しかし、研究成果により今後業務改善され、将来の医療の進歩に貢献できる可能性があります。不利益に関しては、研究対象者に対して介入を伴うことがないため、不利益は生じません。個人が特定されることのないよう情報の取扱いに配慮します。

5. 同意と拒否

本研究の実施についての情報を山口県立総合医療センターのホームページに公開することにより、直接の説明や同意をいただく手続きに代えさせていただきます。対象者に含まれていると考えられ、本研究に同意をいただけない方は担当者までご連絡ください。

6. 担当者

施設名：山口県立総合医療センター（代表：0835-22-4411）

責任者：薬剤部 主任 渡邊 太朗